

こまでが黒沢と呼ばれており、ここから上流は火打石沢と呼ばれる。

火打石沢は、沢幅が広く、全体に明るくて、快適な遊行が続く。

10:07地図上の林道終点を確認する。深沢出合の橋よりここまでは、ほとんど通行不能の廃道と化している。

この先は、ナメが3ヶ所現われるが、滝はない。

11:10水流なくなり、なだらかな源頭部を迎える。ヤブは浅く、20分程で引馬峠に達する。(記

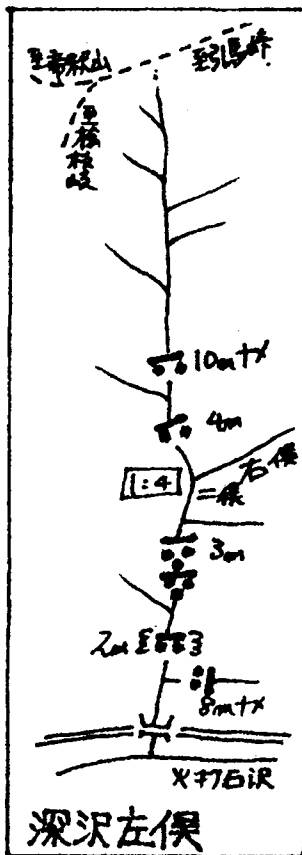
[タイム] トヤス沢出合(6:30)→深沢出合(9:20)→遊行終了(11:10)

深沢左俣(下降)

1985年8月3日

L.A.

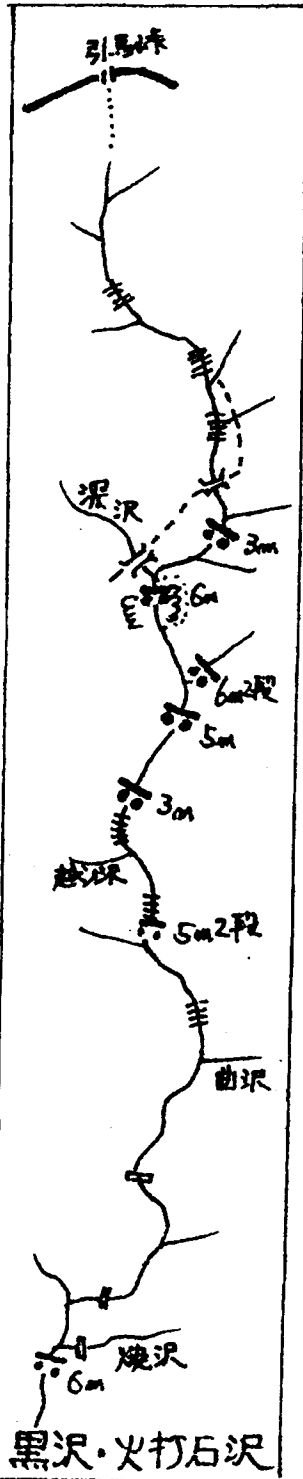
11:40火打石沢の遊行を終えて、引馬峠と思われる所に出

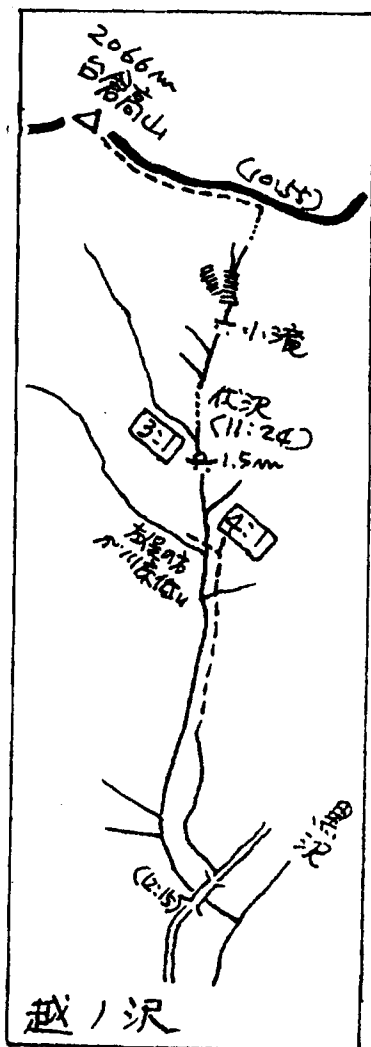


る。しかし、尾根が広く、登山道もみつからない。地図によれば、登山道は稜線の北西にあるはずだがどうしてもみつからない。木が高く、木に登ってみても遠くは見えない。しばらくは稜線をやぶこぎしながら進む。

ひどいヤブだし、13時も過ぎたから下降しようとして下りはじめたら登山道にぶつかった。稜線よりかなり下を通っている。登山道はかなりしっかりしており、引馬峠のあたりでは倒木のせいで見逃してしまったのかもしれないと思った。

登山道を歩き、帝釈山と檜枝岐への道が分かれる所の50





m程手前から、深沢左俣の下降を開始する。ヤブこぎもなく、沢へ。しばらくは何もないが、両側の山とも伐採の跡がみられる。やがて10mくらいのナメ滝と4mの滝が出てくるが、簡単に下れる。

14:40二俣着。その下には2, 3の滝があったが、特に問題もなく下降。15:10火打石沢出合到着。その後は林道を歩いて幕営地へ。 (記・加藤正和)

[タイム] 下降開始(13:40)→二俣(14:40)→火打石沢出合(15:10)

越ノ沢(下降), 1985年8月3日  
L.

台倉高山から引馬峠の方向に降り、平坦地になった所から越ノ沢めがけて下降を開始する。すぐにナメ床をもった沢に降り立つ。

1.5mの小滝を過ぎ、右から小沢を合わせながら水量はいくらかずつ増してゆく。それでもたいしたことはない。やがてその流れも伏流となってしまう、右岸からの沢と合流したあたりからまた水の流れが出てくる。さらに進むと、チョックストーンの滝があるが、滝はこれだけで、あとはなにもない。

やがて林道の跡に出て、右岸からの支沢を合わせる。沢床はそちらの方が低く、出合は荒れていて、広々としている。ここまで約1時間。

資料ではこの先林道の間までに滝があることになっていたが、沢は荒れていて、私達は滝を確認することはできなかった。 (記・

[タイム] 台倉高山(10:40)→下降開始(10:55)→林道跡(11:50)→林道(12:15)→トヤス沢出合(13:30)

曲ノ沢, 1985年8月4日  
L.

林道を30分程歩き、曲沢出合近くのヘアピンカーブより沢に降りる。このヤブこぎは思ったよりひどく、ツルの類とタケがからみあって、いやな感じである。

出合は1m程の小滝になっており、その先ずっと兩岸ともホールド・スタンスが